

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1174800449
法人名	社会福祉法人秩父福祉会
事業所名	白砂高齢者サポートセンターグループホームひなた
所在地	369-1501 埼玉県秩父市吉田久長193 (電 話) 0494-72-6061
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年2月19日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年4月25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円		その他の経費(月額)	15,000円 + 実費	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり1,200円				

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	3 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84.5 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	金子医院、てしがはら歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

秩父連山が回りを囲み、自然環境に恵まれた地域に位置している。高齢者サポートセンターとして敷地内にはグループホームのほかに通所介護、生活支援ハウス、訪問介護事業所、特別養護老人ホームなどが併設され、地域の介護サービス事業の全般を担っている。もともと地域の方たちの入居が優先されていたということもあり、地域に密着してきた施設である。グループホームとして、地域の特性を最大限活用し、お花見や日帰り旅行を楽しむなど、常に入居者を中心に考えた生活作りが実践されている。昔ながらの食べ物を提供したり、地域行事に参加したり、地域なまりが聞けるなど、懐かしさを感じることの出来るホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 定例会議(ひなた会議)において、外部評価の結果について話し合いが持たれ、改善に向けての取り組みがされている。平成18年11月の外部評価での改善項目とされた、馴染みの家具や装飾品の持ち込みや入居前の生活歴を活かした取り組みについては家族に呼びかけ、馴染みの物が持ち込まれていた。また畑作りなども積極的に行われ、利用者の経験がホームの中で活かされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価において現段階では実施できていない事項についても前向きに検討し、改善していこうとする姿勢が伺える。いくつか既に実践されている状況を確認することができた。地域とのかかわりについて自己評価においては改善項目とされていたが、地域のコミュニティに参加するなどの取り組みがされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) ホームの理念や地域での役割を説明したうえで、ホームの運営についての助言や協力を求めている。行政職員だけでなく民生委員、地区役員、家族代表の参加の中で話し合い、その中で運営費をもう少し値上げしてもいいのではという意見も出されるなど運営推進会議を通じて、少しずつホームが地域の方たちに理解されている。研修報告や活動報告などもされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 理事長、施設長、管理責任者が常に施設内におり、意見や苦情に対応できる体制になっている。トラブルや普段の生活とは違う突発的な状況においても、施設長と管理者がすぐに連絡を取り合い、指示することができるようになっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域に密着している施設なので、地域の行事に参加したり、場所の提供をすることなどが頻繁に行われている。中庭は地域のゲートボール場として提供していたこともあり地域との連携はよく取れている。職員の中にも地域住民がいるので地域の情報は共有しやすい。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	秩父福祉会の理念に基づいた目標が掲げられている。高齢者サポートセンターとして地域の中に根ざし、地域のために存在している施設である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝と夕方の申し送り時に、居間で職員が白砂恵慈園三訓である「笑顔で挨拶しよう、相手の立場になって考えよう、今日も1日お世話させて頂くことに感謝しよう」を唱和している。日々の実践の中でも介護させてもらっているという姿勢が伺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの姿勢として、積極的に地域に出向いてコミュニティに参加し、地域の道路の花の植え替えや草取りなどを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘された事項に対して、一つひとつできる範囲で改善がされている。例として、なじみの物(カレンダーや人形など)は家族に協力を求め、持ってきてもらうなど早急に改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで2回開催し、内容的には活動報告や研修報告がされている。その中で委員から管理費などについて心配される声が聞かれたり、家族の代表の方からの意見も取り入れられている。結果については家族にも報告している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市民生活課に意見を聞くなどして、ケアサービスの向上に努めている。また、市町村関係以外にも介護保険認定調査員との交流もあり、様々な情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回(1日か2日)は家族がホームに利用料の納入に来所しているため、その都度、日頃の暮らしぶりや健康状態などを伝えている。担当制になっており、入居者の生活については充分伝えられている様子が伺える。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関の見やすい所に設置するなどして、意見や苦情を受け止め、活かしていく機会を設けている。事例としては、家族が望んでいない病院に通院したことがあり、苦情として受け止め、会議等の場で周知したことがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地域内から通勤している職員がおり、なじみ過ぎるほどの関係があるため入居者にとっては安心できるようである。離職率も低く、家族的な雰囲気の中にも一定の節度が保たれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同ホームでの経験年数の長い職員がいるため、生活の中で教えたり、教えられたりする機会もあるが、外部研修による自己研鑽や新たな気づきを感じさせる研修の参加が少ない。	○	交通が不便なため、外部研修への参加には困難なこともあるが、認知症介護への理解を深めるためには、研修に積極的に参加することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父地域内には10箇所ほどのグループホームがあり、現在、事業所連絡協議会を立ち上げ、介護の質の向上を目的に準備している段階である。研修などの時に見学を兼ねて訪問している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規契約時は生活に必要な最小限の物を持ち込んでもらうが、後日、徐々に家族に連絡し面会時に持って来てもらっている。部屋にはカレンダーや家族写真などが飾られている。また、利用者が安心して暮らせるように、家族や関係者と相談し、協力し合いながら馴染みの関係作りを進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	地域の方も4人ほど入居しており、また職員も地域から通勤しているため、地域ならではの行事や食べ物など多くの共通話題も共有している。百人一首を読み上げる方に合わせて下の句を読みあげたりする場面が見られ、和気合い合いとした雰囲気が感じられる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者とのかかわりの中で、本人のしたいこと、行きたい所、会いたい人など、一人ひとりの思いや意向を受け止めて、家族と相談しながら援助に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の定例会で利用者一人ひとりの状況を10分くらい報告し、介護計画の内容を確認しながら共有している。介護の目標が抽象的になっており具体性に欠ける。	○	介護計画の立案にあたっては利用者の課題を介護職員と共有しながら具体的な内容になるように留意してほしい。
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護職員は、日々の生活の記録に基づき、状況の変化や気づきを報告し、話し合って見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内には通所介護があり、ご主人が通所介護を利用している日に、奥様が通所介護に遊びに行くなどの柔軟な対応がされている。また、家族がいつでも宿泊できるような支援もされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医師会の理解と協力が、週2回、ホームまで来て往診している。利用者にとっては定期的な往診があることで安心感がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けたケアの体制がまだ十分に整備されていないが、今後法人としては検討課題として取り組む予定がある。また、重度化した場合については、本人や家族と相談の上、同一事業所内の特別養護老人ホームへの入所も含めて検討し話し合われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別台帳については事務所のキャビネットに保管している。日常生活の中で排尿の困難な方がバルーンを使用されているが、見た目には気づかないような配慮もされているなど、プライバシーに配慮した介護がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食前の時間の過ごし方は、早くから居間に来て隣の方と話したり、自分の部屋でくつろぐ等、それぞれ思い通りに過ごしている。通院などの外出時、自分の家に寄りたいという希望があった場合は、少しの時間立ち寄ってみるなどの柔軟な支援がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「みんなで食べるご飯はおいしいね」という言葉が自然と口に出るような楽しい雰囲気がある。利用者は、介護スタッフの家庭的な調理によって食事を楽しみ、完食する方が多い。職員は無理強いすることはなく、時間をかけてゆっくりと食べるよう支援している。また、量や彩りにも配慮している。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在のところは介護職員の体制によって、決められた曜日・時間で入浴しているが、一人ひとりの希望にそった入浴の楽しみ方を検討したいと考えている。	○	一人ひとりの意向や希望に合わせた時間に入浴を楽しむことができるよう支援していくことが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業をしていた利用者もあり、草取りや畑の手入れ、野菜づくり、花の植え替えなどを手伝っている。こうした生活歴を活かした取り組みを利用者は楽しみごとの一つとしている。自分達から積極的に取り組む利用者も多い。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が住んでいた家の建て替えの際、ミキサー食を持参して見に行くなど、本人の希望に応じて出かけるように支援している。徘徊のように急に外へ行きたいという時も後から付いて行くなどし、外出を制限するようなことはない。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵をかけないケアを実践している。2名の方については夜中に起きることがあるので家族に了解を得て、居室にセンサーを付けている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとに総合訓練を実施している。併設している施設と連携しているので、避難誘導については協力体制ができている。また地域民生委員や消防団、職員も10分以内に駆けつけられるようなマニュアルになっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については一人ひとりの状態に合わせて支援している。午前、午後2回、おやつや水分を摂るよう心がけ、牛乳やヨーグルトでカルシウム補給がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンフロアの中に居間、台所、浴室、トイレ、各居室がある。部屋から廊下に出て居間に移動するときは動きが見えるので、介護者も入居者も安心できる空間になっている。ソファが置かれていることで家庭的な居心地を感じることができる。BGMも気にならない程度の音量でかかっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの日当たりの良い部屋の中で、家族の写真や自分で作った人形などが箆笥の上に飾られている。持ち込まれたものを収納するスペースが広く、居室も清潔で居心地のよい空間である。臭気がなく、室温、湿度、共に快適に設定されている。		